



# 支部だより

No. 163

日本山岳会京都・滋賀支部

2026年6月15日

## 山に集う楽しさを

支部長 幣内規男

先日、秋に実施したい山行の下見に南丹市美山の芦生へ行って来ました。

1982年(昭和57年)刊行された『新ふるさと事情』熊谷栄三郎著の懐かしい本を読み直して、著書の副題に書いて有る、山村へき地発、都会人への手紙には、京都、滋賀の消えゆく山村の現状とそこに住む人々の、壮絶さ、悔しさ、それでも捨てたくない魂とご先祖様への想い。今のうちに読んでほしい本です。著者は、京都大学文学部仏文科卒業、京都新聞社入社。

今では、山間部の集落へ行くには、徒歩で、数カ所の峠を越えて行くか、マイカーで、悪路を落石注意、熊出没の標識を確認しつつ運転していくかしかかかない。バスも、鉄道もみな廃止。それよりも防衛費増額、殺傷兵器の開発へと進む日本。本当にそんなことで、緑豊かな日本をなくしてよいものか？

山岳会も、ついにアナログからデジタル時代へまっしぐら。パソコン操作出来ない会員はもう要らないかの如く。年に一度の発行の『山岳』も、ほしい人には有料でおわけするらしい。毎月発行の『山』も、紙ベースの会員は有料でとなる。

本部からの、助成金一人あたり年2500円は、年2000円に減額。京都・滋賀支部も、会員数が200名から現在会員数半減です。以前と同じ催し、行事も実施するのは無理です。今こそ若い会員の力量を発揮することが山岳会永続への道です。

## 日本山岳会京都・滋賀支部 2026年度(令和8年度) 第41回 総会 報告

伊原哲士

日本山岳会京都・滋賀支部の諸活動について日頃よりご協力を頂き感謝申し上げます。

日本山岳会京都・滋賀支部2026年度(令和8年度)第41回総会は4月4日(土)に京都・鴨沂会館にて開催しました。総会の記念講演は、日本山岳会京都・滋賀支部顧問の薬師義美氏でした。

事務局の予約ミスで、上履きの要らない新館ではなく、上履きのいる旧館だった事を周知できず、ご不便をお掛けしたことをお詫びいたします。

### 【要旨】

2026年4月4日(土)に鴨沂会館にて日本山岳会京都・滋賀支部第41回総会開催を開催。総会議長は、総会司会者の伊原哲士事務局長の発議で駒井治雄副支部長を選任しました。

総会出席者31人。総会委任状32人。合計63人で成立を確認(支部会員・準会員総数115名過半数は58名)。懇親会22人(講師含む)。

議決内容は「2025年度事業(案)報告」「2025年度決算(案)報告」「2026年度支部委員選出(案)」、「2026年度事業計画(案)」「2026年度予算(案)」の5点。全てが承認成立しました。

・支部会員の高齢化、次世代会員への登山文化や登山技術の継承など、困難な状況は続きます。少なくない数の支部会員の退会がありました。そんな中でも委員や会員の協力で様々な支部例会が取り組まれました。

・支部会費の値上げ後の対応。1986年の支部創設

以来、支部会費は会員 2000 円、会友 2500 円のまま据え置かれていました。2025 年度から会員・会友ともに 3000 円に引き上げました。

支部会費の支出は主なもので、年 4 回の『支部だより』発行費用と郵送料、支部ホームページ運営費、総会や支部委員会の会場費、講演の会場費や講師料等です。2025 年度から支部委員会出席への交通費も全額ではありませんが、京都市内 500 円〈1 回〉・京都府内 1000 円〈1 回〉・京都府外 1500 円〈1 回〉と支給をします。将来的には次世代の支部運営を託す委員に支部委員会出席交通費の全額負担を目指します。同時に様々な支部運営経費削減を目指します。『支部だより』の自力発行や『支部だより』を費用の掛かる紙媒体から費用の掛からない電子媒体への受け取り要請などをおこない様々な削減策を講じています。現在、『支部だより』の郵送は 70 部まで削減しています。支部会員でメールアドレスのわかる会員には併行して PDF 版の『支部だより』を郵送とは関係なく送信しています。毎月の支部委員会も安い会場に変更し会議時間を短縮して削減をおこないました。

・安全登山活動と次世代への登山技術継承への取り組みの一つとして「支部登山講習山行」が須藤邦裕委員（支部山行部会長）を中心として引き続き取り組まれました。

・総会の中で「登山文化の継承」「若手登山家の育成と次世代への支部の継承」「安全登山」「自然保護等の日本山岳会としての諸活動の取り組み」など課題は山積していることを確認しました。

・2019 年 1 月から 2022 年 3 月までの 39 ヶ月にわたり『丹波の山々』『京都の山々』『近江の山々』として京都新聞に連載されたものが原点となる書籍については支部の貴重な記録として既に軌道に乗っており、費用分担についての意見が出されました。支部内の凍結費用（斉藤寄付金など）の活用などの意見が出されました。基本は支部としての書籍買い取り支出（30 万円）、募金（現在

60 万円）、書籍の販売を基本に対応します。出版費用は約 170 万円と予測されており、印刷所の支払いについては回収を前提としての支部の立て替え払いを検討します。

### 「2025 年度事業報告」

支部の通常の例会である「北山探訪」「京都・滋賀の東西南北を歩く」「シャクナゲ山行」「比良縦走」「テント泊登山」「スケッチ山行」「歴史と文化の山旅」「大文字納涼登山」「岳逍遙」「今西錦司レリーフの集い」「沢登り育成講習」「琵琶湖沖島清掃登山」「山岳展望と秘湯」等が取り組まれました。「支部安全登山講習山行」は登山・人工壁登攀・沢登り・岩登りが取り組まれました。山の日記念事業は、今回も見送られました。

5 支部の懇親山行は 11 月に京都・滋賀支部の担当で近江八幡にて実施されましたが、天候不良の為、琵琶湖沖島に渡れませんでした。

### 「2025 年度決算報告」

2025 年度も、支部会員数減、不況下での広告収入源などで厳しい会計が続きます。会員・準会員の会費の滞納問題も発生しております。支部委員会あげての対応で会費納入率は大幅に改善されました。

支部会計の仲井委員が 2 月末で退会。支部会計報告は 2 月末で閉める暫定的な形になりました。

### 「2026 年度支部委員」

2026 年度も幣内支部長は留任します。新委員は岩田委員、前川委員が承認されました。

他の委員の変更はありません。今後も支部の役員の若返りと活性化に積極的に取り組みます。

上田委員、瀬崎委員は退任します。

### 「2026 年度事業計画」

支部委員会も一部世代交代が進み新たな飛躍が期待されます。会員の高齢化と、中間層の会員の欠落、若手会員の育成と課題は続きます。支部例会は「北山探訪」「シャクナゲ山行」「スケッチ山行」「歴史と文化の山旅」「大文字納涼登山」「岳逍遙」「今西錦司レリーフの集い」「山岳展望

と秘湯」等と様々なテーマで取組まれます。会員の高齢化に配慮した例会が多いですが、今後も次世代会員へのレベルの高い「支部安全登山講習山行」例会の取組みも継続して開催されます。「安全登山」「命と健康を大切にする」「次世代への登山文化の継承」の立場での山行運営が予想されます。他支部との交流も同様です。

他支部との交流では、「関西支部との交流登山」「5支部合同懇親山行」等が取組まれます。

#### 「2026年度予算」

2026年度予算も、原油価格高騰と諸物価の高騰などで予想できない会計運営が続きます。次世代育成への支部からの支出は喫緊の課題です。同時に、支部会計の「安定と健全化」に取り組みます。

#### 【2026年度京都「今西錦司賞」】

2026年度の京都「今西錦司賞」は支部古道調査委員会の予定でしたが、全体が完成には至らず次年度に持ち越されました。

選考委員会は齋藤惇生委員長長の逝去により、再編成となります。

#### 「記念講演」

講師は薬師義美氏(日本山岳会永年会員・京都滋賀支部顧問)にお願いしました。ご高齢の薬師氏の負担軽減の為、対談形式としました。聞き手は須藤邦裕委員(支部山行部会長)です。

薬師義美(やくしよしみ)氏は1936年、富山県生まれです。日本山岳会永年会員(終身会員)。日本山岳会京都・滋賀支部顧問。京都・滋賀支部元副支部長。元日本ネパール協会関西支部事務局長。ヒマラヤ及びヒマラヤ関連の文献研究者として知られています。『ヒマラヤ関係図書目録』は海外の登山家からも高い評価を受けています。著書は多数あります。山岳に対する研究や活動で顕著な業績を挙げた団体や個人に対して授与される賞である「秩父宮山岳賞」の最初の受賞者です。

冒頭に薬師氏が隊長を務め、初登頂を成功させたネパール・ヒマラヤのグルジャ・ヒマール(7193m)の貴重な記録DVDが上映されました。

1969年の「富山岳連ヒマラヤ登山隊」のグルジャ・ヒマールは隊長が薬師義美氏、初登頂の隊員は佐伯友邦氏でした。現在と違い、1969年の装備である。DVDでも困難な登攀が伝わってきます。グルジャ・ヒマールの登頂の困難さは、2018年の韓国グルジャ・ヒマール登山隊が全滅した遭難事故が耳目に新しい。

まだ海外渡航が困難な頃の1965年～1966年に、薬師氏はネパール・ヒマラヤ中部から東部を踏査しています。これらの経験が後のグルジャ・ヒマール初登頂に繋がって行きます。

薬師氏は高校の山岳部の頃のホームグラウンドが富山だった為に黒部。最初からレベルが違うと聞き手の須藤氏は絶賛していました。

薬師氏は泊山岳会に所属の頃の1961年8月には黒部祖父谷初遡行など北アルプスの沢に精通していきました。

日本の近代登山黄金期の岳人による講演でした。



## 《日本山岳会京都・滋賀支部 2025 年度事業報告》

- 4月5日(土) 総会 鴨沂会館 34人(懇親会21人) 記念講演 和田城志氏
- 4月19日(土)「北山探訪」△626.2m(三等三角点島) 担当:田中顧問 3名
- 5月3日(土)「岳逍遙」比良シャクナゲ山行 担当:松下委員 7名
- 5月6日(火) 登山講習山行⑩比良げんき村人工壁「クライミング」 担当:須藤委員 8名
- 5月11日(日)沢登り育成講習① 比良坊村明王谷 担当:村上会員 8名
- 5月24日(土)「北山探訪」地蔵谷峰791.5m(Ⅲ地蔵谷) 担当:田中顧問 中止
- 5月24日(土)歴史と文化の山旅「大阪泉南・お菊山」 担当:伊原事務局長 雨天延期
- 5月29日(木)琵琶湖・沖島清掃活動〈自然環境整備〉① 担当:竹下委員 10名
- 5月31日(土)~6月1日(日)「岳逍遙」陀羅佛小屋 担当:松下委員 4名
- 6月1日(日) 京都・滋賀の東西南北端を歩く 京都府南端と東端 担当:大槻会員 9名
- 6月7日(土)「北山探訪」① 半国高△669.8m 担当:八木監事 中止
- 6月14日(土) 安全登山講習⑫カメロックス「ボルダリングスキルアップ」 担当:須藤委員 8名
- 6月21日(土)~22日(日)「テント泊山行」越前甲と大日山・1368m 担当:田中顧問 中止
- 6月22日(日)沢登り育成講習②比良坂下へク谷 担当:村上会員 7名
- 6月28日(土)「北山探訪」②三国岳 △959.1m 担当:八木監事 中止
- 6月28日(土)歴史と文化の山旅「大阪泉南・お菊山」 担当:伊原事務局長 中止
- 6月30日(月)琵琶湖・沖島清掃活動〈自然環境整備〉② 担当:竹下委員 9名
- 7月6日(日)沢登り育成講習③八池谷(八淵ノ滝) 担当:村上会員 5名
- 7月13日(日) 京都・滋賀の東西南北端を歩く 京都府北端と西端 担当:大槻会員 6名
- 7月16日(水) 安全登山講習⑬比良げんき村「人工壁クライミング」 担当:須藤委員 7名
- 7月19日(土)歴史と文化の山旅「信貴山」 担当:伊原事務局長 中止
- 7月26日(土)大文字山納涼山行 担当:藤綱委員 8名
- 7月27日(日)「岳逍遙」比良武奈ヶ岳北西周辺 担当:松下委員 中止
- 8月3日(日)「岳逍遙」比良コヤマの岳巨木探し 担当:松下委員 中止
- 8月3日(日)~4日(月)「沢登り合宿」木曾川水系柿其川支流岩倉川 担当:土井委員 7名
- 8月10日(日)「海を眺める山旅」①丹後 依遅ヶ尾山△540m 担当:八木監事 中止
- 8月31日(日)関西支部と交流登山京都・金比羅 担当:伊原事務局長 10名(全体22名)
- 9月6日(土)「海を眺める山旅」②舞鶴 青葉山△693m 担当:八木監事 中止
- 9月20日(土) 安全登山講習⑭京都・金比羅「クライミング」 担当:須藤委員 7名
- 9月21日(日)「岳逍遙」朽木トチノキ再訪 担当:松下委員 中止
- 10月5日(日) 秋のスケッチ 三上山 担当:駒井副支部長 中止
- 10月4日(土)「北山探訪」大岩山△758.2m 担当:田中顧問 中止
- 10月11日(土)~12日(日)北山荘観月会 担当:田中顧問 中止
- 10月19日(日) 安全登山講習⑮「道のない山を歩く」 担当:須藤委員 6名
- 10月25日(土)~26日(日)比良山縦走 担当:土井委員 中止
- 10月30日(木)~11月1日(土)山岳展望と秘湯の旅 担当:幣内支部長 中止
- 11月1日(土) 今西錦司レリーフの集い 担当:駒井副支部長 7名
- 11月8日(土) 登山講習⑯京都・金比羅

「クライミング」 担当：須藤委員 3名  
 11月9日(日)～10日(月)五支部合同懇親山行  
 (京都・滋賀支部担当) 琵琶湖・沖島の山)  
 担当：竹下委員 12名(全体50名)  
 11月22日(土)「ファーストエイド(応急処置)  
 講習」南禅寺正徳院 担当：須藤委員 17名  
 11月23日(日)「北山探訪」③奥ノ谷山△811m  
 担当：八木監事 中止  
 12月13日(土)安全登山講習⑰カメロックス「ボ  
 ルダリングスキルアップ」担当：須藤委員 9名  
 12月13日(土)忘年山行仰木峠～梶山681.1m  
 担当：田中顧問 中止  
 12月14日(日)「岳逍遙」武奈ヶ岳の日  
 担当：松下委員 中止  
 12月20日(土)歴史と文化の山旅「神野山日本一  
 の星空を訪ねる」担当：伊原事務局長 中止  
 1月10日(土)「岳逍遙」初詣山行 長等神社・逢  
 坂山 担当：松下委員 4名  
 1月7日(水)支部新年会 南禅寺「順正」  
 担当：伊原事務局長 29名  
 1月17日(土)安全講習⑱京都・八ヶ峰「雪山  
 のルートファイディング」担当：須藤委員 7名  
 1月18日(日)「北山探訪」④桑谷山△924.9m  
 担当：八木監事 中止  
 1月31日(土)安全登山講習⑲カメロックス「ボ  
 ルダリングスキルアップ」担当：須藤委員4名  
 1月31日(土)「岳逍遙」御殿山  
 担当：松下委員 4名  
 2月:「岳逍遙」鈴鹿霊仙山1084m  
 担当：松下委員 中止  
 2月:「岳逍遙」鈴鹿調子ヶ口1077m  
 担当：松下委員 中止  
 3月7日(土)～8日(日)安全登山講習⑳「スキー  
 ワカン山行」福井護摩堂山 担当：須藤委員9名  
 3月8日(日)早春の淡路島へ「釜口山一等三角点」  
 担当：幣内支部長 中止  
 3月14日(土)健康登山教室「王子公園より摩耶山  
 へハイキング」 担当：松下委員 中止

3月20日(土)～22日(月)歴史と文化の山旅  
 松江・鳥取を訪ねる 担当：伊原事務局長 中止  
 (全国他団体関係)  
 4月12日(土)～13日(日)第15回日本山岳会登  
 山教室指導者養成講習会 長野県小諸・安藤百福  
 センター 3名(全体19名)  
 6月8日(日)～9日(月)八ヶ岳探勝会(静岡支部)  
 2名(全体14名)  
 6月21日(土)日本山岳会総会 1名  
 7月11日(金)～12日(土)第38回日本山岳会東  
 北・北海道地区集会兼北海道支部60周年記念式  
 典(北海道支部担当) 3名(全体55人)  
 10月18日(土)～19日(日)日本山岳会自然保護  
 全国集会 火打山(越後支部)  
 10月26日(日)～27日(月)第38回全国支部懇談  
 会及び関西支部90周年記念式典 8名  
 11月15日(土)～16日(日)全国ボランティア支  
 援登山集会(東海支部) 1名  
 12月6日(土)日本山岳会年次晩餐会(日本山  
 岳会120周年記念式典) 9名

#### 《日本山岳会京都・滋賀支部2026年度事業計画》

4月4日(土)日本山岳会京都・滋賀支部総会 鴨  
 沂会館 新館ホール(201号)  
 記念講演「薬師義美先生に聞く(黒部～ヒマラヤ)」  
 薬師義美顧問(聞き手 須藤邦弘委員)  
 4月5日(日)安全登山講習「クライミング」  
 金比羅 担当：須藤委員  
 4月6日(月)歴史と文化の山旅「大和郡山の豊臣  
 秀長遺構散策と花見会」 担当：伊原事務局長  
 4月18日(土)「鈴鹿10座を歩く」  
 日本コバ934m 担当：土井委員  
 4月19日(日)「北山探訪」半国高山 △669.8m  
 担当：八木監事  
 4月11日(土)「鉄路駅から近江城山探訪」  
 小谷山、虎御前山 担当：松下委員  
 5月7日(木)～8日(金)「山岳展望と秘湯の旅」  
 剣山(1955m) 担当：幣内支部長

5月9日(土)「鈴鹿10座を歩く」天狗堂 988m  
担当：土井委員

5月10日(日) 安全登山講習「地図読み」  
皆子山 担当：須藤委員

5月15日(金) 歴史と文化の山旅「奈良県山添村・  
神野山」 担当：伊原事務局長

5月16日(土)「北山探訪」三国岳 △959.1m  
担当：八木監事

5月17日(日)～18日(月) 第26回5支部合同懇  
親山行(富山支部主催) 担当：伊原事務局長

5月31日(日)「今西錦司レリーの集い」  
担当：駒井副支部長

5月：「鉄路駅から近江城山探訪」JR 草津線寺庄  
駅-隠岐城 207m-佐治城 250m 担当：松下委員

5月：スケッチ山行「比良のシャクナゲを描く」  
イン谷口～釈迦岳 担当：田中佳洋会員

5月：スケッチ山行「愛宕山のクリンソウを描く」  
清滝～梨の木谷林道 担当：田中佳洋会員

5月：「鉄路駅から近江城山探訪」JR 東海道本線  
柏原駅一長比城 391 担当：松下委員

6月20日(土)「北山探訪」大段谷山 △795.1m  
担当：八木監事

6月20日(土)安全登山講習「ビレイ講習」  
北小松人工壁 担当：須藤委員

6月：スケッチ山行「上醍醐の国宝建築を描く」  
醍醐寺～醍醐山往復 担当：田中佳洋会員

7月11日(土) 安全登山講習「地図読み」  
掃雲峰(るり溪) 担当：須藤委員

7月18日(土)～20日(月) 上高地探勝会  
(JAC山研に泊まる) 担当：幣内支部長

7月25日(土) 大文字納涼登山  
担当：藤綱委員

8月2日(日)～3日(月)「柿其川沢登り合宿」  
岩倉川～柿其川 担当：土井委員

8月24日(月)～25日(火)大台ヶ原探勝会  
担当：伊原事務局長

9月6日(日) 安全登山講習「クライミング」  
金毘羅 担当：須藤委員

9月26日(土)「鈴鹿10座を歩く」竜ヶ岳 1099m  
担当：土井委員

10月3日(土) 安全登山講習「ハイキング」美山  
担当：須藤委員

10月17日(土)「鈴鹿10座を歩く」  
雨乞岳 1237m 担当：土井委員

10月18日(日) 安全登山講習「クライミング」  
担当：須藤委員

11月14日(土)「鈴鹿10座を歩く」  
釈迦ヶ岳 1091m 担当：土井委員

11月15日(日)安全登山講習「地図読み」  
△680.9 古屋の東 担当：須藤委員

12月5日(土) 安全登山講習「クライミング」  
金毘羅 担当：須藤委員

2027年1月13日(木) 支部新年会  
南禅寺「順正」 担当：伊原事務局長

2027年2月5日(金)～6日(土)もしくは2月19  
日(金)～20日(土)日本山岳会京都・滋賀支部40  
周年 南禅寺会館 レセプション南禅寺順正  
記念山行東山トレイル

**(全国他団体関係)**

6月20日(土) 日本山岳会総会

7月10日(金)～11日(土) 第39回日本山岳会  
東北・北海道地区集会(秋田支部担当)

8月：関西支部・京都滋賀支部交流山行  
六甲山系(登山組と登攀組)

12月5日(土) 日本山岳会年次晩餐会

#### 2026年度 日本山岳会京都・滋賀支部役委員

顧問 薬師義美、田中昌二郎

支部長 幣内規男

副支部長 駒井治雄

事務局長 伊原哲士

監事 八木 透、須藤邦裕(新)

会計 野村綾子(新)

委員 岩田萌恵(新)、栗野雅巳、佐々木一成  
竹下節子、土井文雄、藤綱珠代、  
前川朋子(新)、松下征文

## 活 動 報 告

### 第 20 回安全登山講習山行 雪山(二ノ谷山)

中塚智子

2月14日、道の駅朽木本陣8:30集合、環境センター横(桜峠)まで移動して車を停める。道路上に雪は全くなく、日中も10°Cを超える春の陽気の予報。二ノ谷山は、600m少しの低山だと思っていたが、高島トレイルの一部で、人の気配がなく、なかなか手ごわい山だった。

登山口8:50出発。やわらかい積雪50センチ程にツボ足で入り、早速、スノーシュー、ワカンを装着する。「ルーファイしながら好きのところ、登って」と須藤さんからの声かけで、柔らかい雪に苦戦し、急坂に汗をかきながら、先頭を交代しながら尾根筋を辿る。地図を見ながら植林の中を進み、477mで、休憩。暑い!雪上にいるので風は冷たいが、暑かった。

次はP545mを目指す。ノートレースの雪上歩きは踏み抜きが罠のように待っている。スノーシューの沈まなさがいいな一と思い、ワカンにしたことを少し後悔した。ワカンで踏み抜くと、下の空洞の木に引っかかり、抜けなくて、スコップで掘り出して脱出したりした。P545mまでくると、だいぶ来たかな一と地図を確かめると距離的には半分くらい?気を取り直して歩き出す。終始、空は青く、雪とのコントラストが美しい。

山頂までの登りは、雪がなくなる箇所があったり、表面が固くなって歩き易いと思っても、また、踏み抜いて沈んでしまう…。それでも、11:30には山頂到着!!道標もしっかり雪の中。しばし、昼休憩。到着も早いし、天気もいいし、この先の611mのピークまで足を延ばす。

その前後に、早いし、P545mから、ルーファイしながら尾根筋降りてみよう、と聞こえてきた…、

人一倍(踏み抜いて)沈んでいた私は、ノートレースの下りは、恐怖だった。

12:30に、山頂を後にして、順調に下る。途中、初めて登ってくる登山者とすれ違う。P545m到着。「ワカンをはずして、行こうか」と。ゲーターをしていない私は、ワカンのまま降りることを許された。(ほっ)

そこからは、ルーファイしながら、足元気をつけながら、慎重に尾根筋を辿って行く。道路が見えてから、最後どこを降りようかと各人それぞれ探した道を進んだ。最後のガードレールをまたぐのも、よっこいしょ、でした。

二ノ谷山は、標高こそあまりないですが、ノートレースの雪山で、いろいろ勉強させてもらいました。ありがとうございました。

実施日:2026年2月14日(土)

参加者:須藤邦裕(L)、三木千津子、上野陽子、池ノ内直樹、前川朋子、中塚智子



雪山に遊ぶメンバー 二ノ谷山山頂で

## 第 21 回安全登山講習山行 (クライミング講習)

前川朋子

前日の雨で金毘羅山の壁が濡れているため、比良げんき村の人口登攀壁にて 9 時半から 14 時半の講習会となりました。

毎回須藤さんにアドバイスされているのは、まず体をほぐすためにやさしいルートをこなしてから、本命にアタックすることなので、今回もまず一番やさしいルートから始めました。

1 本日は、体が温まっていないし、初めての場所で高度感もわからないし、冷たい風がビュービュー吹いてきて、恐怖心に囚われてガチガチに緊張したまま登ったため、かなり疲れました。

2 本目で少し慣れたので、3 本目に本命にアタックしました。1 本目よりもスムーズに登れたので、また調子に乗って 4 本目にむずかしめのグレードに挑戦しましたが、無駄に力んで後半に粘りがきかず、ゴールにたどり着けませんでした。

そのルートを、須藤さんがお手本に登ってくださったのですが、難なくするするとゴールされてしまいました。わたしの場合、前半であれやこれや悩んでいる間に体がどんどん固まって疲れがたまり、後半は余力なしになって手も足も出なくなっているなど思いました。

前回の講習会に続き、自分の体の使い方、柔軟性、筋力、判断力の不足をひしひしと感じました。やはり練習あるのみです。

昼食後に 5 本目に挑戦。人口壁の右端のルートで、真ん中にいくまでに腕がガクガクになってきました。横向きに壁にしがみついてもがいていると、応援やアドバイスの声とともに琵琶湖の美しい景色が目に映り元気が出ましたが、途中でリタイア。今日はもう力が入らないからここまでにしようと思ったのですが、三木さんに最後はかんたんなルートでクールダウンしたらよいとアドバ

イスをもらったので、6 本目をクリアして終わりました。

わたしはまだビレイができないので、ビレイをしてくださったみなさまに感謝いっぱいです。ビレイできるように練習します。これからもどんどん挑戦していきたいので、機会があれば積極的に参加します。

今日も丁寧にご指導いただきありがとうございました。

実施日：2026 年 2 月 19 日(木)

場 所：比良げんき村の人口登攀壁

参加者：須藤邦裕(L)、野村誠人、三木千津子、中塚智子、前川朋子

## 歴史と文化の山旅

大和郡山の豊臣秀長遺構散策と花見会

能田直子

伊原さんの「歴史と文化の山旅」シリーズに何年ぶりかで参加した。

齢を重ねるにつれ、極寒期、猛暑期の外出は躊躇われ高度の限界、速度の限界も加わり支部行事に参加する機会が極端に減ってしまった。

春 4 月、配信された支部だよりの行事案内に格好のイベントを見付けた。

4 月 6 日(何と平日!!)「NHK 大河ドラマ『豊臣兄弟』のモデルとなった奈良県大和郡山市の豊臣秀長の遺構を桜の季節に尋ねます」、山行の目安：体力 1 技術 1 歩行時間 4 時間。まさに末期高齢者向き!!

4 月 6 日(月)午前 10 時近鉄郡山駅東口に集合。メンバーは平日にのこのこ参加できるサンデー毎日の幣内支部長、伊原事務局長、能田ヒラ会員の 3 名。

石垣・堀などが遺る郡山城は信長の命を受けた筒井順慶が 1580 年に築城、秀吉の弟秀長が大和・紀伊・和泉 100 万石の所領を得て入城、城主となり、豊臣政権の畿内統治の拠点として整備した。秀長は病気のため 1591 年に没しこの地に葬られた。その跡をたどり、併せて郡山城の桜を楽しもう、というのが今日の山行のメインテーマである。

まずは近鉄郡山駅から西に向かい大納言塚を目指す。至る所に「秀長さん」幟がたち、平日なのに数人連れ、夫婦連れなど大勢の観光客が城下町特有の狭い道路を右往左往する。我々もその中に溶け込んでの散策となる。「秀長うどん」なる看板もあり大河ドラマの力をまざまざと感じる。

10 分ほどで「大納言塚」に到着。秀長さんの墓地である。白壁に沿って左に回ると四角や丸い石を重ねた 2 m 余りの五重塔があり長い長い戒名が記されていた。形通りに手を合わせ次なる目的地「源九郎稲荷」に向かう。義経が吉野に落ちのびた時、白狐が静御前を送り届けたという話が有名のようだが、ここは鳥居を横目に見て近くの「町家物語館」へ。大正 11 年に建てられた町家で、当時としては珍しい 3 階建ての遊郭建築。2 階には客をもてなす小部屋が並び、「半日 50 銭・一日 3 円」などと書かれた料金表や顧客名簿のようなものも展示されている。1 階には珈琲スペースがあり、数組の女性客に交じって我々 3 人も一杯 100 円の珈琲で一休み。

重い腰をあげて次は江戸時代から続いた町家、藍染の「箱本館・紺屋」に。藍染の作業も見られるようだが（只今昼休み中）の貼り紙。

大和郡山といえば金魚で有名だが、金魚資料館のある一帯は月曜日休業だそうで、大和郡山市役所にある、小さい水槽の並ぶ PR スペースでお茶を濁し、市役所併設の休憩所で昼食とする。最近の山行やら世間話やら老人話を楽しんだ後、郡山城へ向かう。

郡山城の一番の見どころはその石垣にあり、「布積み」「算木積み」「乱積み」など様々な組み

方がされており、また石仏や寺院の礎石、石灯籠など様々な石が転用されている。浮き彫りされた地蔵が下に向けて組み込まれた「逆さ地蔵」が有名である。おりしも郡山城は桜祭りの開催中。広い城内のあちこちに桜が満開、おびただしい数の屋台が並び、家族連れや、春休み中の中高生などで大賑わい。いつも隣家の桜で済ましている私には格好の花見となった。

4 月の「歴史と文化の山旅」はここで全行程終了。何と 18000 歩にもなる立派な山行であった。

実施日：2026 年 4 月 6 日(月)

参加者：伊原哲士(L)、幣内規男、能田直子

## 近江城山道遥

### 第 1 回 小谷山、虎御前山

松田雄二

4 月 11 日(土)、前日降った雨が嘘のように、空は晴れ渡り地面は乾いていた。今年最初の近江城山道遥山行に参加した。

滋賀県で生まれ、65 年暮らしてきたが、初めて降りた JR 北陸本線 河毛駅に集合して、今回の目的地である、小谷城跡へ向けて出発した。

新緑の中、田おこしをする一面に広がる田園の中を伸びる道を歩くと 30 分程で小谷城跡の登山口に到着した。山中に入ると戦国時代ここが山城であったことがわかる、砦、堀、曲輪、土塁といった形跡が残り興味を引いた。また、現在、NHK の大河ドラマが「豊臣兄弟」というまさにタイムリーに放映されていることから、若干観光客も多いように感じられた。

登山道の途中では、ボンティアの方が、戦国時代の小谷城の状況や、浅井長政、お市の方、そして浅井3姉妹の茶々、初、江の暮らしぶり等を熱心に解説してくれ、非常に興味を引かれた。登山中、所々に眺望の良い場所があり、低山とは言え、快晴で爽快な気分を味わうことができた。

午前11時半に、浅井長政の時代の本丸があった場所で昼食をとった。本丸跡は、整備され、山中に開けた空間が広がり、破城となって400年以上が経過しても、往時の雰囲気が残っているような気がした。



本丸跡で

昼食後は、更に山頂を目指し、途中、若干急な登りもあったが、浅井氏の初代亮政(すけまさ)が築城したと伝えられる、大獄(おおづく)城跡、小谷山山頂に午後2時ころ到着した。

山頂は所々、眺望が広がり、眼下には、山本山、琵琶湖に浮かぶ竹生島、その先には、琵琶湖を隔てて比良山系が見渡せた。下山は、その昔、秀吉がお市の方・茶々・初・江を救出した道と伝えられるルートで、麓の集落に下山した。そのあと今度は、小谷山の向いに位置する、虎御前山へと向

かった。ここは、織田信長勢が小谷城を攻める際に陣を張った場所であるが、小谷山から見下ろされる状態となるとところが興味深かった。

登山口には、杖が貸し出されてあったので、借用して登り始めたが、登りはじめが急峻で杖が非常に役立った。その後、しばらくすると山道は、尾根道となり、途中、木立の間から、集落や小谷山が眺望することができた。山頂付近には、戦国時代の織田方の陣跡がある。また同所は、元々古墳であったとの看板があり、古より、この付近一帯が肥沃な土地として多くの人々の生活の場であったと思われる。

登ってきたルートを下山し、その際にも杖が非常に役立った。JR河毛駅には、午後4時前に到着した。今回の山行は、私自身初めての小谷城で、戦国の世の儚さが偲ばれる山行となった。

実施日：4月11日(土) 晴れ

参加者：松下征文、大倉寛治郎、真名子栄一、大久保優、竹下節子、松田雄二

## 北山探訪

半国高山△669.8m

前川朋子

8時半に太秦天神川駅のロータリーに集合、八木先生の車で杉阪口へ向かった。

9時山行スタート。春の陽気で、気温もちょうどよく、供御飯峠まで快適な登りとなった。峠には、お地藏さまがまだ新しい祠に安置されていた。そこからは道がわかりにくく、何度か引き返したりしながらようやく△534mに到着。小休憩してから、△669.8mを目指した。

ところが、道を見失って、かなりの急登を登

## スケッチ山行

### 釈迦岳

上野陽子

ることになった。心臓はバクバクし、汗が吹き出て、いっきに体力を消耗した。その後も、上ったり下ったりを繰り返し、12時少し前にやっとピークに到着したときは、とても達成感があった。

八木先生山行のお楽しみの乾杯が、疲れた心と体に染み渡った。ゆっくり昼休憩をとってから下山開始。田中さんがつけてくださった赤いリボンの目印のおかげで、道迷いなくスムーズに14時半に下山できた。

鶯や小鳥の鳴き声と、美しい新緑の木々にツツジやシャクナゲが色を添えた山の景色は、本当に美しかった。誰にも出会うことのない、ひっそりとした北山のマイナーピークのひとつに連れてとてもうれしかった。

昨年入会された成田さんともいろいろとお話しが出来たし、田中さんの矍鑠としたお姿に、わたしもいつまでも元気で山を歩けるように日々の心身のメンテナンスをがんばろうと思った。今回も、楽しく学びの多い山行だった。

八木先生、ご一緒したみなさま、ありがとうございました。

実施日：2026年4月19日（日）

参加者：八木透(L)、田中昌二郎(SL)、成田圭子、前川朋子



半国高山のピークで

4月25日曇りのち晴れ、釈迦岳スケッチ山行。今回メンバー二人のため、のんびり行こうと大津ワングル道登山口で地図確認。中腹でシャクナゲ開花を見つけたらそこで描いて戻る予定に。

登山中のスケッチのため画材は好きな物で軽く、と事前に連絡があり工夫し必要分のみ用意。

10時出発。薄曇りの空。登り始め20分で木に長い爪痕を見つける。30cm位が2本、10cm位が4本。各地の冬眠明けの熊の対策の話をしていところ。熊ベルはあるがリーダーが大声で叫ぶ。そこから15分登った所で初イワカガミを見つける。可憐。すぐ近くに新しい標識があった。比良山遭難防止対策委員会とある。途中、木々の間から打見山、堂満岳を見る。まわりの山も新緑が美しい。ミツバツツジも明るく咲いている。花崗岩の砂地と岩が出てきて、小さなスマレが増えてきた。1時間程登ったがシャクナゲはまだ無い。

あるかなとリーダーが心配した頃、急登の先に白に近い薄いピンクの大きなシャクナゲ。縦横3m位。丸く開いた花は満開。まわりにこの一本だけなのでスケッチとなった。花のすぐ横の斜面に座り、時間は30分。何とか色塗りまでしたら、リーダーは立ったままで花の下絵を何枚も描かれていて、色付けは家でだそう。花びらをよく見て、7枚ですよと教わる。（正確には花びらの根元が筒状にくっついており合弁花といわれる 先端の裂けて見えるところは5枚が普通だが、このときは7枚数えられた）

そこで昼食にして、リーダーにコーヒーと毎年行かれるフィンランドのビルベリージャムを頂いた。その頃には明るく日が差し12時半。折角なので先まで行く事になった。1時間程歩き標高900m辺りで谷に向かって沢山イワカガミが咲い

ているのを見つけた。小さな花が可愛いと話しながら進む。前を見ると満開のシャクナゲだ。綺麗な色とりどりのシャクナゲの群生地。歓声を上げた。蕾も美しい。しばし見惚れ堪能して又進む。10分ほど歩くと、今度はイワカガミが左右の斜面一面に広がっている。それもすべて満開の花を付け、目を見張る光景。大群落！とリーダーは本格一眼レフで。こんなに広範囲の満開のイワカガミは初めて見た。描くには時間がなく撮影。感激を話しながら行くとイチョウガレに出た。上からリーダーの三点支持ですよ！の声も。唱えながら頑丈な木の根を掴み登った。樹林帯を抜け開けた先にもまたイワカガミの大群落が迎えてくれた。分岐に出た所で下るか計算し登ることになった。

釈迦岳頂上到着 15時25分。三等三角点にタッチ。帰りはカラ岳道で下る。20分程でシャクナゲの群生地になった。こちらは背丈のあるシャクナゲが多く花が咲き誇っている。登山道の先まで咲き連なっているのが見える。蕾も多くまだまだ美しい景色を楽しめるだろう。なんて素晴らしい時に来たのだろう。シャクナゲに包まれて山道を下った。17時20分イン谷口に戻る。美しい花の余韻で帰路に着いた。素晴らしい一日をありがとうございました。

実施日： 2026年4月25日(土)10時～17時  
場所： 比良釈迦岳  
参加者： 田中佳洋, 上野陽子



スケッチ 田中佳洋さん



ツツドリ (夏鳥)

カッコウ、ホトトギスの仲間  
筒底を叩くように「ポポ、ポポ」とリズムよく鳴く。やや甲高いホトトギスの声に比べて、低音で聞こえにくいですが、実は登山中よく鳴いている。ただ姿を見つけることは難しい

鈴鹿の山に思う

村上 正

「鈴鹿10座を歩く」と題した土井氏の企画を支部26年度の事業計画から見つけた。何となく若い頃に歩いた鈴鹿の記憶が蘇ります。今年はこの企画にぶら下がり10座を歩いてみようかと思ひ、手元の西尾寿一(著)『鈴鹿の山と谷』全6巻を読み始めたのですが、概念図を見ているうちに東の鈴鹿と西の比良山に囲まれた琵琶湖が気になりました。調べてみると琵琶湖の生い立ちは、三重県の伊賀盆地に出来た浅くて狭い湖から始まったそうです。この湖は幾度の断層運動と地殻変動の繰り返しで、土砂で埋められては移動するという作業を何十万年もの間それを繰り返し、43万年ほど前に比良山にぶつかって先に進めなくなって現在の琵琶湖の形に至ったというのです。

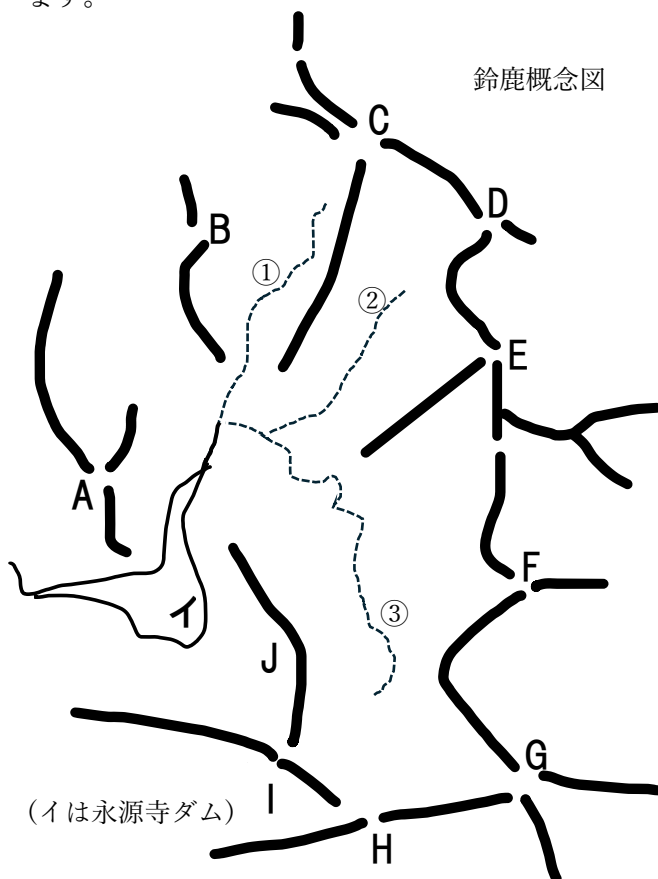
にわか雑学はそれぐらいにして比良山系から琵琶湖越しに鈴鹿山系を眺めてみると、この山系の東西南北の稜線や谷を繋げて歩いてみたくなるのは山屋の妄想なのでしょう。地形図の1/20万を広げて上から眺めると、湖東平野の扇状地形を流れる愛知川は上流で御池川①・茶屋川②・神崎川③と名を変えて、鈴鹿10座のある山域に大きく食い込んでいるのがわかります。

初めて鈴鹿の山に入ったのは18か19歳の頃です。当時はまだ勤労学生の手で、夜の9時に授業が終わるのを待って、同級生の屋根さんと二人で(同級生ですが彼は3つほど年上)京都駅に向かい近江八幡辺りの駅でステーションビバークしました。その頃は一泊しないと行けない山域でした。早朝、始発に乗って神崎川に向かい杠葉尾から長いこと歩いて神崎川に入渓しました。神崎川を忠実に遡行して御在所から四日市に抜ける計画で、二日目は沢の中程の適当な所で野宿をしました。イワナが沢山釣れたし、火を焚いて濡れた服を着たまま乾かしながらイワナご飯・イワ

ナの塩焼き・イワナの味噌汁を食べたことなどを思い出します。辛さよりも楽しさの方をよく覚えているのは辛さを乗り越えた後の爽やかさがそうしたのでしょうか。厳冬の御在所藤内にK.C.Cの仲間と三人で行って、凍てついたールンゼの登攀をした時も前夜発のステーションビバークでした。マイカーなど持ってない二十代の話です。その後も鈴鹿の山に行きましたが遡行が目的で、ほとんど主稜線は踏んでいません。

そんな思い出のある鈴鹿の山々を土井氏の企画に便乗して歩こうと思っています。一回目は①の日本コバを歩きました、50年前の遠い昔の記憶を辿りながら登ったのですが、なんとなく・かすかに・ぼんやりと頭に浮かぶ記憶はあやふやです。次回は②天狗堂、ここは登っていません。私にとっては初登です。年内は③竜ヶ岳④雨乞岳⑤釈迦岳と続き、残る10座は2027年に持ち越した⑥御池岳⑦藤原岳⑧御在所岳⑨イブネ⑩銚子ヶ口が楽しみです。土井氏はきっとその山に適した良い季節を選ばれることと思います。

鈴鹿概念図



## 個人山行

### 夢の南極大陸

#### ヴィンソン・マシフ登山遠征記

佐々木 司

2026年1月6日19時4分、南極大陸最高峰ヴィンソン・マシフ(4892m)の山頂に立った。眼下に広がるのは雲海ではなく、どこまでも続く氷の大地。その中から山頂部分だけが突き出すようにいくつも山が顔を出している。これまで見てきたどの山とも異なる光景だった。

登山を続けるうちに、私は「8000m峰とはどんな世界なのか、登ってみたい」と思うようになった。そして2024年、ヒマラヤのマナスル(8163m)に登頂することができた。

その後、「次の目標は？」と聞かれる度に「南極大陸最高峰ヴィンソン・マシフに登りたい」と答えていた。南極はヒマラヤに比べて未知の多い世界で、本や映像でも触れる機会は多くない。いつか自分の目で見てみたいと思いつつも、費用や時間を考えると現実には遠い存在だった。

転機は突然訪れた。本来この遠征に参加するはずだった知人が、出発直前に不慮の事故で亡くなったのである。私の南極への思いを知る関係者から「志を継いで登らないか」と声をかけていただいた。ご遺族の承諾や海外エージェントの許可、資金の問題など簡単な話ではなかったが、挑戦を決意した。託された機会であり、同時に自分の夢への挑戦でもあった。

出発までは1ヵ月もなく、装備確認や手続き、仕事の調整に追われた。今回は初めて広く支援をお願いしたが、多くの応援が南極へ向かう背中を押してくれた。

12月26日、関西国際空港からロサンゼルス、サンティアゴを経てチリ最南端の街プンタ・アレナスへ向かった。世界地図の端にある港町で、

マゼラン海峡に面している。この時期の南半球は夏で、夜10時を過ぎても明るい。白夜の南極がすぐ近くにあることを感じた。

12月30日、南極へ向かう飛行機に搭乗した。約4時間後、機窓に白い大陸が現れた。大雪原を想像していたが、そこには黒い岩肌をのぞかせた山々が連なっていた。やがて機体はブルーアイスの滑走路に着陸した。外に出ると気温は-10℃ほど。身構えていたほど寒くはなかったが、足元の氷の大地が滑りやすく、歩くのに神経を使った。多くの方々の支えのおかげで、ついに南極の地に立った。

雪上車でユニオン・グレイシャー基地へ移動した。ここは南極活動の拠点で、食事やシャワー、Wi-Fiなど設備も整っている。

すぐにヴィンソンのベースキャンプへ移動する予定だったが、悪天候のため待機が続いた。元日の早朝、誰もいない静かな時間に南極の氷を溶かした水で書き初めをした。自然に翻弄されながらも、南極で新年を迎えられたことがうれしかった。

元日の午後、小型機でヴィンソンのBC(2140m)へ移動した。1月3日、穏やかな空の下で登山を開始。ソリを引きながらローキャンプ(2780m)へ向かう。強い日差しと照り返しで行動中は汗ばむが、空気は極度に乾燥しており、止まるとすぐ体温が奪われる。南極特有の環境だった。極点に近づくと大気は薄くなると聞いていたが、すでにこの高度でそれを感じていた。



ローキャンプで一日停滞した後、1月5日にハイキャンプ(3780m)へ向かった。ソリは残置し、100ℓ ザックに全ての装備を詰め込んだ。約45度の氷の斜面に張られた固定ロープをアッセンダーで登る。高度も上がり呼吸は荒くなる。約8時間かけて到着したハイキャンプは-30°C近い厳しい寒さだった。

1月6日、サミットプッシュの日。晴天微風という申し分ないコンディションだった。ハイキャンプに不要な装備を残し、必要最小限で出発する。緩やかな斜面を一定のリズムで進み、山頂直下では岩の露出した急登が現れた。そこを越えると視界が開け、緩やかな稜線の先に頂があった。

出発から約7時間半、ヴィンソン・マシフの山頂に立った。本来この山に挑むはずだった知人の帽子を手に写真を撮った後、その日のうちにハイキャンプまで下山した。



ヴィンソンは「比較的容易な山」と言われることもある。確かに登山期間は短く、危険箇所も多くはない。しかし私にとっては決して簡単な登山ではなかった。海外のメンバーとロープを結んで行動するのも初めてで、時には衝突もあったが、多くを学ぶ貴重な時間となった。

もう一つ、私の中には葛藤もあった。今回の遠征は「代わりに行く」という側面が強く、「これは誰のための登山なのか」と自問する気持ちがあった。山頂に立った瞬間もその思いは消えなかった。しかし下山しながら、南極に行くこと決めたのは自

分、そして南極で歩き、判断し、見て感じたことは紛れもなく自分自身の経験である。そう思えたとき、この登山は確かに自分の登山だったと思うことができた。

「次は南極、ヴィンソンに登りたい」と言い続けてきた。その言葉が今回の機会につながったのかもしれない。探検家の西堀榮三郎は「見果てぬ夢でも努力を続ければ、チャンスが来た時につかみ取れる」と語っている。

夢を持ち、口にしながら準備を続けていけば、その夢に手が届く瞬間が訪れる。今回の南極遠征で、私はそれを実感した。

## 図 書 紹 介

### 『アルプ』

責任編集者 串田孫一

月刊誌 1958年～1983年(終刊)

発行所 創文社

竹下節子

今回は「図書紹介」というよりも「雑誌紹介」です。数冊読んだだけですがご紹介します。

『アルプ』は過去に先輩方から「素晴らしい本だ」と絶賛の声を聞いていた雑誌の名前です。それから興味を抱きつつも忘れ去っていましたが、ある日『アルプ』と驚きの出会いをしました。

バッキンからでてきたものはA5版の一冊70ページ程度、増刊号は130ページ前後の小冊子の束でした。内容は先輩方から聞いていた通りのまさしく串田孫一編集の、文芸雑誌『アルプ』でした。わたしは初めて表紙にさわりページをめくることができました。

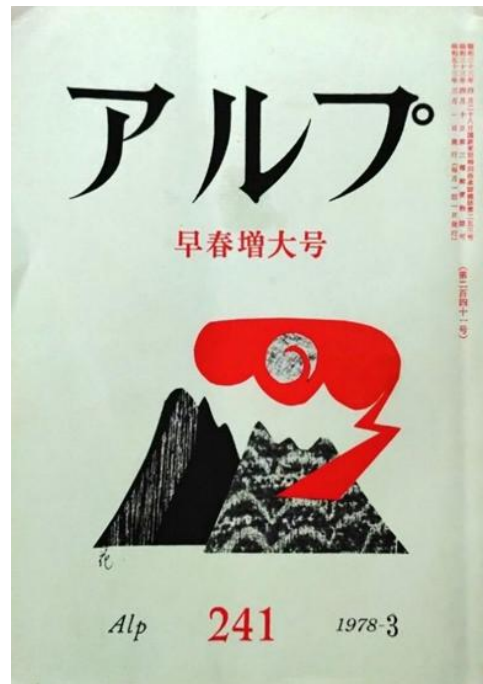
『アルプ』は1958年から1983年に300号が刊行されました。串田孫一（哲学者、随筆家、詩人、画家）が責任編集を務めた伝説的な「山の文芸誌」だと紹介してあります。串田孫一、尾崎喜八（詩人）、畦地梅太郎（版画家）らを中心に深田久弥、山口耀久など山に心を寄せる文人、知識人の多彩な才能が結集された前代未聞の本です。錚々たる人選に仰天しました。『アルプ』250号記念特集号には1号～249号までの総目次が執筆者と作品名が掲載されています。42ページにわたる目次は見応えがあります。延べ600人もの著名人に寄稿依頼をして『アルプ』の編集に迎えました。串田孫一の人柄と人望と本作りへの熱意が伺えます。串田孫一の自然や生き物に対峙する姿勢、山への優しさと、かう気持ち、すべてに愛情を持って接する豊かな精神が支持され心を動かしたのだと思います。また『アルプ』241号早春増大号 1978-12には創刊当時の苦労話が掲載されています。

『『アルプ』創刊準備の頃』と題して串田孫一自ら書いています。代官山の創文社での編集会議のこと、企画立案の時系列、本のネーミングを考えると、電話のない頃に寄稿依頼をする執筆者の選出、仕事を持ちながら本作りに動き回っている様子を書いています。そこから編集員の忙しいような物音や話し声が生々しく聞こえてきそうなくらいです。その場所に一緒にいるような臨場感が伝わってきます。

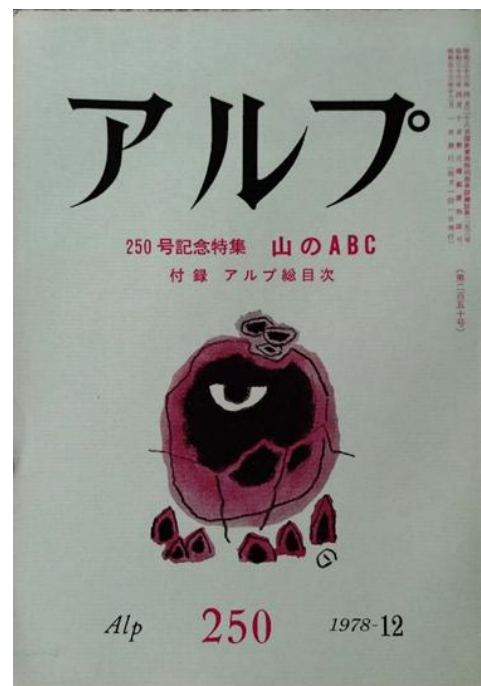
様々な物を大切にしながら、串田孫一が『アルプ』に思い描いたのは自然との共生をテーマに据えた独自の誌面だということです。単なる登山記録や風景描写にとどまらず、知的で感性豊かな交流の記録でもあることです。時代を超えた普遍的価値観で『アルプ』の思想が受けつがれることを熱く思い描いていたのだと思います。40年前に終刊されましたがアルプの方々は鬼籍に入り『アルプ』に偉大なる足跡を残していかれました。これからも『アルプ』は自然との共生をテーマに独自のスタイルで、串田孫一の思惑どおりの足跡をつ

ける文芸誌だと思います。

経験の浅い串田孫一のファンの一人として『アルプ』の永遠の息づかいをご紹介したいと思います。どこから読んでもいいと思います。心のすき間にスーうっと、入っていきます。



241号 早春増大号表紙「春雷」岩見禮花



250号 記念特集号表紙「山のABC」畦地梅太郎

## 行 事 案 内

- ◇ 山行への参加申込は、例会名、会員番号、氏名、年齢、電話番号等、緊急連絡先および山岳保険の加入・種類など必要事項を記入の上、メール、または FAX、郵送で。
- ◇ 「★マイカー分乗」の山行は参加者の自家用車利用を予定しています。ご協力をお願いします。
- ◇ 思わぬところで遭難事故が発生します。車両保険と同様、また、ご家族のためにも山岳保険の加入は登山者の常識です。会員各位のご理解をお願いいたします。

### 北山探訪 山行計画（6月～10月）

## ◎北山探訪③

大段谷山 △795.1

実施日：2026年6月27日(土)

行 程：佐々里峠→大段谷山→往路を戻る

地形図 1/25000 図 「中」

山行の目安：体力2 技術2 藪漕ぎあるかも

担 当：八木 透

申 込：6月22日(月)までに必要事項を記入の上  
メールにて担当者へ

## ◎北山探訪④

奥八丁山 △752.0

実施日：2026年9月27日(日) 変更

行 程：佐々里→登山口→奥八丁山→往路を戻る

地形図 1/25000 図 「中」

山行の目安：体力2 技術3 藪漕ぎあるかも

担 当：八木 透

申 込：9月19日(土)までに必要事項を記入の上  
メールにて担当者へ

## ◎北山探訪⑤

ホサビ山 △750.2

実施日：2026年10月25日(日)

行 程：安掛→ホサビ山→往路を戻る

地形図 1/25000 図 「中」「島」

山行の目安：体力2 技術3 藪漕ぎあるかも

担 当：八木 透

申 込：10月19日(月)までにメールにて担当へ

## 2026年度

## 安全登山講習山行

6月20日(土) ビレイ講習 比良人工壁

7月11日(土) 地図読み 掃雲峰(るり溪)

9月6日(日) クライミング 金毘羅

10月3日(土) ハイキング 深山

10月18日(日) クライミング

11月15日(日) 地図読み△680.9 古屋の東

12月5日(土) クライミング 金毘羅

集合場所：参加者に連絡いたします。

※いずれも天候状況によって室内クライミング  
への変更あり。

担当・リーダー：須藤邦裕

## 近江城山逍遥シリーズ (7月～9月)

7月、8月城山は暑いので敬遠

第2回 7月19日(日)

比良川右股(神璽谷)納涼沢逍遥

担当: 松下征文

集合場所: イン谷駐車場 8時

第3回 8月9日(日)

明王谷納涼沢逍遥

担当: 松下征文

集合場所: 坊村駐車場 8時

第4回 9月13日(日)

鬼男入谷城(おおりにゆうたにじょう) 685m

近江鉄道鳥居本駅一男鬼入谷城

担当: 松下征文

少し難しい山のようなようです。

近江鉄道鳥居本駅前 8時15分集合

(8:12着があります)

詳細は参加希望者に連絡いたします。担当者にお問い合わせください。

担当: 松下征文

## 恒例 大文字山納涼山行

夕景を眺めて語り合う内に、市街地の灯りが瞬き、京都の夜景の美しさを楽しめます。ご家族、ご友人も一緒にご参加下さい。

実施日: 2026年7月25日(土)

集合: 17時45分 銀閣寺正門

担当: 藤綱珠代

持ち物: 飲み物、軽食、ライト、虫除け

お車の方は、銀閣寺市営駐車場が夕方5時から無料ですのでそちらに。

## 神崎川 沢登り

沢登り初級者参加可

実施日: 2026年7月25日(土)

担当: 土井文雄

沢登り装備一式自前の事

貸し出し装備無し

歩行時間林道歩き除き5時間

## 柿其川 沢登り合宿

実施日: 2026年8月2日(日)～3日(月)

場所: 木曾川水系柿其川支流岩倉川

宿泊地: 柿其温泉 溪谷の宿いち川

集合場所予定: 黒丸パーキング

(参加メンバーにより変更あり)

担当: 土井文雄

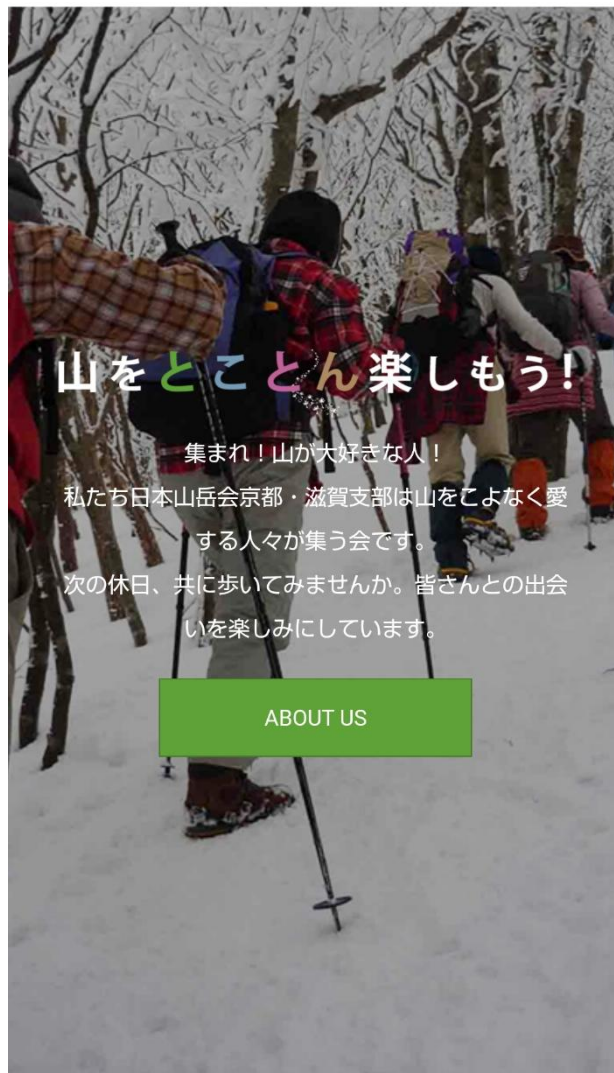
## ◎大台ヶ原探勝会

近畿では自然保護活動のシンボルとなっている大台ヶ原の東大台を訪ねます。参加メンバーにより、入山規制のかかる西大台の入山申請も可能です。大台ヶ原周辺の秘湯の入之波温泉も楽しめます。(雨天決行)

実施日：2026年8月24日(月)～25日(火)  
集 合：8月24日(月) 午前10時00分  
大和西大寺駅南口下（南側改札を出て10m）  
行 程：8月24日(月)近鉄西大寺駅(10:00)–大台ヶ原ビジターセンター(14:00)–日出ヶ岳往復 – 心・湯治館（16:00着・泊まり）  
8月25日(火)心・湯治館(9:00) –大台ヶ原ビジターセンター–尾鷲辻–牛石ヶ原大蛇ぐら–シオカラ谷–大台ヶ原ビジターセンター(13:00)–入之波温泉（14:00-15:00）-西大寺駅（17:00着解散）  
山行の目安：体力 3 技術 2 歩行時間は1日目約2時間、2日目約4時間  
ハイキング装備 雨具 簡単な宿泊備品  
費用概算 15000円(心・湯治館1泊2食12000円・車使用交通費概算3000円・昼食と入浴は実費別途)  
※申し込み締め切りは2026年7月15日(水)。宿泊予約があり出来るだけ早く申し込みください。  
（申し込み・問い合わせ）  
伊原 哲士

支部のホームページが更新されています  
月1回はホームページを見ましょう  
「日本山岳会京都・滋賀支部」で検索

 日本山岳会 京都・滋賀支部  
The Japanese Alpine Club KYOTO・SHIGA





絵 山本一夫さん

山本一夫さんから頂いた寒中見舞いのはがきに描いてあった絵です。私は大変気に入っています。

一夫さんは水彩画も良く描いておられるようですが、対象は決まって剣岳だそうです。

いつだったか忘れてしまいましたが、一夫さんと5月の立山に行きました。GW明けでしたが、雪が降ったので、連休中の人の賑わいもすべて消されて真っさらの立山でした。

剣沢の小屋からさほど離れていないところだったと思うのですが、吹雪になり、それがホワイトアウトというものなのか、剣を熟知しておられる一夫さんが「ちょっと待て！ここから動くな！」と静止、しばらく周辺を確認してから安全に小屋へ誘導していただきました。その慎重さが大切なことだと学びました。

もう一つ剣の思い出があります。京都山岳会の夏山合宿で真砂沢をベースキャンプに剣岳に登りました。頂上から降りるときの1歩め、梯子に

足を置くときに体を崖の外に出す瞬間が怖くて、それが怖いから長次郎谷の雪溪から行きたいと宮川清明さんをお願いして二人で行きました。ところがその年、雪溪がグサグサで、ここを戻るのは危険と判断され、結局怖がっていた梯子を下りることになりました。

ずいぶん昔の思い出です。

—編集後記に代えて のむら綾子—

＝次号 164号 予告＝

2026年9月15日発行

原稿締切7月31日(金)

原稿送付先 編集担当 竹下節子

日本山岳会京都・滋賀支部会報「支部だより163号」

発行者 幣内規男

編集者 のむら綾子

印刷 〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町38-2

(株) 北斗書房北斗プリント社 北斗書房

TEL 075-606-8540 FAX075-791-7290

日本山岳会創立 120 周年記念出版



# 日本山岳会の歩みと 近代登山史

JAC 会員  
見玉茂 著

近代登山の歴史とともに歩んできた会の歴史を、貴重な資料とともに振り返る記念碑的一冊! 【A5判 410頁上製◇5月9日刊行】

一般価格

6,050 円

のところ…

会員特別価格

4,920 円(税込)\*

▶まとめ買いでさらにお得!

\*1冊あたり 4,620円+送料全国一律 300円(冊数問わず)



ご注文は  
こちら▶



ナカニシヤ出版

〒606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町 15 <https://www.nakanishiya.co.jp/>

電話 075-723-0111 FAX 075-723-0095

表示は税込価格です

## 京都一周 トレイル

### マップ&ガイド

全5コース・  
14ルートを楽しむ

京都一周トレイル会 公認

京都トレイルガイド協会 編

※本書の売上の一部をコース整備協力費として  
京都一周トレイル会へ寄附します。

交通機関から歩きやすい  
14ルートに分けて全コースをガイド!  
難易度・コースタイムも掲載。  
自分に合った歩き方を楽しめます。

ナカニシヤ出版

〒606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町 15  
電話 075-723-0111 FAX 075-723-0095

京都ガイド本大賞  
2022リピーター賞 受賞!

1,540円(税込)・A5判・144頁